令和7年度

植物相調査及び標本室の管理運営事業　報告書

早坂徹[1]・木村紗重子[2]

1　仙台市野草園　園長

2　仙台市野草園

概要：仙台市野草園の標本室（SWG）は平成 20 年の新野草館建築の際に新しく設けられた．この標本室に収められている標本は仙台市を中心とした宮城県内で採集された維管束植物の押し葉標本が主体となっている．本事業は（公財）仙台市公園緑地協会の自主事業「植物相調査及び標本室の管理運営事業」として行い，事業内容は「標本の整理と収蔵・管理保管する作業」「希望者への標本室の利用と標本の閲覧」「野草園利用者が標本と親しむ催しの開催」「植物相の調査」である．

1. 令和7年度の事業内容

令和7年度は①「標本の作製と配架・寄贈作業」の実施，②希望者への「標本室の利用と標本の閲覧」，③展示会「自然観察と標本展」の開催，④ワークショップ「押し葉標本の額飾りをつくろう」を開催した．「野草園植物目録第5版作成に向けての作業」は，標本室の冷凍庫の故障が続いており進めることができないため実施しなかった．

2. 標本の作製と整理作業

標本の作製，整理と配架，外部施設への標本の寄贈の作業は，植物関連の任意団体 宮城植物の会の野草園標本室協力チームの協力を得て行っている．

今年度実施した作業日数と作業人数は表1のとおりである．作業人数は延べ人数としている．前年度に比べて日数が 7 日，人数が46人減少しているが，その主な要因は令和4年度から標本作製作業に欠かせない冷凍庫が故障したままのためである．標本作製を行うことは，植物園の学術資料を充実させるため，また現行の版が発行からすでに21年経過している野草園植物目録の新版を作成する上でも欠かせないものである．

野草園の標本庫（SWG）に整理・配架されている標本数は，今年度の作業分を追加し47，410点となった（令和8年3月3日現在）．

表1：令和 7 年度　標本整理作業実施回数と人数

月	作業回数	作業人数
4 月	3 回	9 名
5 月	2 回	9 名
6 月	4 回	10 名
7 月	3 回	14 名
9 月	2 回	8 名
10 月	1 回	1 名
12 月	4 回	14 名
1 月	1 回	8 名
3 月	1 回	8 名
計	21 回	81 名

※作業人数は延べ人数

※8，11，2 月は実施なし

3. 標本室の利用と標本の閲覧

今年度の標本室の利用は，野草園の新規採用職員の研修での利用が1回，個人や植物関連団体の標本同定や標本閲覧の利用が7回，ワークショップと職場体験での標本室見学が5回，展示での標本使用が1回で，利用回数と人数は延べ14回113人だった（表2）．

標本室の主な利用は植物関連団体の「標本の同定と閲覧」で，アマチュア研究者同士の情報交換の場や研究を行う上で，当園の標本室がよい受け皿となっている．また，ワークショップや職場体験で行っている標本室見学は，近年子どもが触れにくくなっている自然科学の分野に触れる機会となっている．

表2：標本室の利用

月	利用者（個人・団体・イベント）	人数
4 月	・野草園職員研修として標本室見学	2 名
6 月	・宮城植物の会（標本同定） ・個人（標本閲覧）	11 名 1 名
7 月	・押し葉標本の額飾りをつくろう（標本室見学）	10 名
8 月	・「自然観察と標本展」にて収蔵標本の活用 ・宮城植物の会（標本同定ほか）	ー 7 名
10 月	・宮城植物の会（標本閲覧） ・郡山中学校（標本室見学）	5 名 3 名
11 月	・宮城植物の会（標本閲覧） ・愛宕中学校（標本室見学） ・塩竈市立第一中学校（標本室見学） ・五橋中学校（標本室見学）	14 名 4 名 2 名 4 名
12 月	・宮城植物の会（総会にて標本同定・閲覧）	40 名
2 月	・宮城植物の会（標本同定・閲覧）	10 名

※自然観察と標本展と天文台企画展での観覧者は含まず

4. 自然観察と標本展の実施

「自然観察と標本展」は夏休みの子どもや保護者向けの展示として開催している．今年度は8月7日から8月24日の18日間，野草館企画展示室1階を会場として実施した（写真1）．会場は自由観覧の形をとっているため観覧者数のカウントは行っていないが，会期中の来園者数は622人で，そのうち中学生以下の子どもは74人だった．

本展示は自然とはなにかを導入部とし，遊び，観察，採集，標本作製方法を経て最後に植物と昆虫の実物標本を展示することで遊びから学びまでを一連の流れとして見られるように工夫している．

展示のひとつである押し葉標本のコーナーは毎年テーマを決めて展示しており，今年のテーマは「花はアヤメかカキツバタ」として，美しいが一般の方には見分けが難しいアヤメ科の植物を採り上げた．このテーマは大人も疑問に思うものだったため熱心に標本に見入る年配の来場者も見られた．



写真1：「自然観察と標本展」会場



写真2：テーマ標本「花はアヤメかカキツバタ」

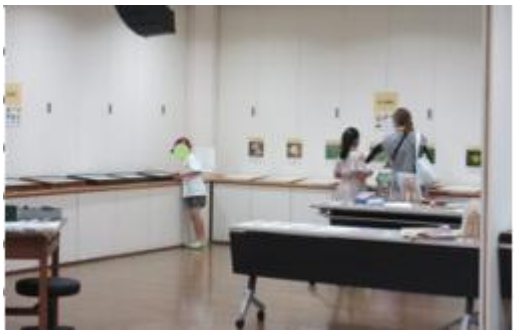




写真3，4：観覧者の様子

5．ワークショップの実施

「こども夏休み企画　押し葉標本の額飾りをつくろう」は，小学校1年生から4年生の子どもと保護者を対象に7月26日に実施した（写真1～6）．内容は植物で遊ぶような感覚で，標本の基本的なつくり方を学び自宅で飾って楽しめる標本作品をつくることで，幼い子どもたちに自然体験と植物を好きになってもらうことを目的としている．一方で「本物」にも触れてもらいたいため，標本室見学では研究に使用される規格やルールでつくられたタンポポの標本も閲覧した．参加者から回収したアンケートの結果では，すべての参加者から「とてもまんぞく」の回答と「楽しかった」「またつくりたい」の声も聞くことができた．参加者は4組7名（欠席1組2名）と少人数での開催となったが，他施設ではなかなか体験することのできない標本づくりのプログラムは次年度も継続して行っていきたいと考える．



写真5：標本室の見学



写真5：標本のつくり方のレクチャー



写真5：植物採集



写真5：押し葉を貼りつける作業



写真6：完成の様子

6. まとめ

標本室の維持管理と活用，標本の作製と整理・配架・寄贈の作業は機材故障中による活動数の減少を除いて今年度も滞りなく行うことができたと思う．次年度も標本室の利用のしやすさを維持し，様々な利用者へ活用してもらえるよう管理に努めていきたい．